

I 計画の位置づけ

- 県は、「さくらんぼを核とする県産フルーツの情報発信実行計画（令和5年3月策定）」において、最上川ふるさと総合公園の一部エリアを、民間活力の導入により、さくらんぼを始めとする県産フルーツの情報発信の場（フルーツ・ステーション）として再整備することを目指すこととし、「最上川ふるさと総合公園における『フルーツ・ステーション』の整備に係る基本構想」を取りまとめた。
- 令和5年度は、当該基本構想をもとに、民間事業者からの意見等を踏まえて、整備の基本方針、導入機能、整備内容等をとりまとめた。
- 今後、この基本計画を踏まえて、公募条件を整理し、民間事業者に対して事業の公募を行う。

II 整備の基本方針

(1) 基本的な考え方

- 山形県を果物王国たらしめてきたのは、長い栽培の歴史に見られるように、品種改良や栽培技術の改善などを通して、常に最先端を目指す挑戦の姿勢である。
- このフルーツ・ステーションは、高品質なフルーツの背後にある、未来を見据えた山形県フルーツ産業の在り方を、県民やフルーツファンに伝える場となることで、我が国のフルーツ産業の牽引役たる「真の果物王国」としてのブランドの確立に資する。

(2) コンセプト

山形フルーツ・フロンティア Yamagata Fruit Frontier

～山形から果物の未来を切り拓く～

果樹農業のフロンティア

- 未来を見据えた果樹農業エリアと体験を重視した学習施設・プログラムを整備し、先進的な果樹産地の在り方を誰もが楽しく学ぶことができる。
- 次世代を担う子どもたちが、フルーツを通じた様々な体験的な学びを得るとともに、果樹農業への理解・関心を深める。

フルーツ活用のフロンティア

- 高品質のフルーツを生産する山形県ならではの食が生まれる場となり、フルーツをおいしく食べることを追求する人々が集まる。
- 県産フルーツにかかわる情報と人が集まる場となり、フルーツを扱う事業や、未来の果樹生産を担う技術が新たに生まれる。

III 導入機能

県産フルーツの情報発信を目的とした以下の機能を導入する。

体験・学習機能

- 次世代を担う県内外の子ども・若者向けに、山形県のフルーツと果樹農業についての体験学習と、果樹などフィールドを活用した理科や生物、環境教育を提供するほか、農業を学ぶ若者の活躍の場として活用
- 社会人向けの視察・教育プログラムを用意し、企業研修に対応
- 観光客を呼び込み、県産フルーツの魅力と、その生産を支える山形県の農業への理解を促進

産業創出機能

- フルーツの生産技術の開発に取り組む事業者に対して、他の事業者・生産者との交流機会や、実証フィールドの提供を通して支援
- 最先端の方式で果樹エリアを整備し、上記のような事業者の集積拠点化
- フルーツや未利用資源などを用いた新商品の開発支援・トライアル販売の実施

賑わい創出機能

- フルーツ・ツーリズムの促進と県産フルーツの情報発信に向け、フルーツに関するイベントを高頻度で開催
- 天候に左右されずに屋外イベントを開催可能な大屋根イベント広場を整備
- フルーツを使った料理を楽しむことができるレストランやカフェを設置
- 公園の立地を生かした景観の向上

IV 整備内容

学習・体験拠点

センターハウスの改修

■ 学習・展示施設

- 山形のフルーツ生産について、地域、環境、歴史、技術等の面から学ぶことができるリアル・デジタルによる各種展示
- 楽しみながらフルーツや果樹農業への理解を深めることができるシミュレーションゲーム等を開発
- 各種セミナー・ワークショップを行うことができるセミナールーム

- 【想定される利活用】
- 小中学生の校外学習や社会人の研修を受け入れ、果樹農業を学ぶガイドツアーやワークショップを実施
 - 県内の農業系大学・農業高校における研究・活動の発表
 - 旬のフルーツをテーマとした企画展を開催し、観光客にフルーツ産地への周遊を促進
 - 県内外の学生を対象としたフルーツを活用した理科・生物のワークショップの開催

■ フルーツ・クッキングラボ（調理施設）

- フルーツの加工品や料理を体験できるキッチンスタジオ
- フルーツの調理や加工を通して、新たな楽しみ方を発信

- 【想定される利活用】
- 季節のフルーツを使ったジャムやケーキ作りなどの体験プログラム
 - 飲食事業者向けのワークショップ

■ 飲食スペース・ショップ

オーベルジュ

新規整備

- フルーツを使った料理を提供するレストラン（少人数の宿泊施設付き）
- 一般観光客からは果樹農業エリアで隔てられた場所に位置し、果樹に囲まれた上質な空間、穏やかな時間を提供

- 【想定される利活用】
- 有名シェフが滞在しながら料理の開発・提供をする「シェフ・イン・レジデンス」の実施
 - レシピのアーカイブによる更なるメニュー開発の促進

未来志向型果樹農業エリア

新規整備

■ スマート果樹エリア

- テクノロジーを利用した今後の農業の姿を誰もが実感できる、最新式の果樹エリアやハウスを整備
- 自動走行の作業ロボット等を活用した園地管理の実演
- 様々な季節にさくらんぼが結果する環境制御ハウスの展示

- 【想定される利活用】
- 最先端の農業を学ぶ子ども・学校向けツアー・ワークショップ
 - 国内外の果樹農業用スマート技術の実証フィールドとしての活用
 - 生産者・新規就農者向けの研修
 - 農作業の体験イベント

■ 環境調和型果樹エリア

- 自然環境との調和を目指す未来型果樹エリア（農薬を最低限に抑えた栽培の実証、環境負荷低減技術の実践）

- 【想定される利活用】
- 県内外の学校向けに環境教育、理科・生物のワークショップなどを通年で実施

カフェ・ショップエリア

既存構造物の増改築

- カフェ
- ショップ
- キッズスペース

- 【想定される利活用】
- 県産フルーツを使ったスイーツ等の開発・提供
 - 県内で新たに開発された商品等の販売

その他の公園施設

新規整備

■ 大屋根広場

- 雨天や夏場であっても活用できるシンボリックな大屋根を設けた屋外イベント広場を新設

■ マルシェエリア

- テント等の出店を想定した園路の整備

■ 見晴らしテラス

- 最上川の眺望を楽しめるウッドデッキ拡張

- 【想定される利活用】
- フルーツ関連イベントを始めとした様々なイベントの開催

(参考)想定される官民の役割分担

	設計・整備		管理運営	
	費用負担	実施者	費用負担	実施者
学習・体験拠点	県	民間	県	民間
果樹農業エリア	県	民間	県	民間 (県による指導)
オーベルジュ	民間	民間	民間	民間
カフェ・ショップ	県/民間	民間	民間	民間
大屋根広場 マルシェエリア 見晴らしテラス	県	民間	県	民間
その他、公園全体の 管理運営 (その他園地等)	—	—	県	民間